

「税理士法人加藤会計事務所」は1963年創業。顧問契約では毎月の訪問とデータ分析で経営のヒントを探り、数々の企業を支援してきた。60周年を迎えた同事務所のトップと次代を担う経営幹部に話を聞いた。

## 会計業務は 経営のお手伝い

——毎月の巡回監査が特徴です。  
加藤 逐一数字を見て、

経営のお手伝いをするのが当事務所の方針です。創業当初は記帳代行業務がメインでしたが、行き詰まりを感じた初代所長がコンピュータによる業務効率化を行うとともに、関与先への

# 会計業務の新しい在り方を示す 事務所が60周年



菅野浩所長

手厚いサービスを開始しました。毎月の会計データの入力はお自身でお願いしています。手間は増えてしましますが、数字に対しての態度

加藤 「必要最低限の業務でいい」「毎月来てもらうのは料金がかさむ」とおっしゃる企業もあるのですが、こまめな振り返りとタイムリーな軌道修正を行う企業は、大きく躍進されています。

小笹 月々の会計データからは多くの情報を得られます。年に1度の税務申告のみを行うやり方では、経営結果や改善点を年に1回しか認識できません。大変もつたいないことです。

## 20代が活躍。アウトドア派の事務所

菅野 はじめは頻繁な面談に途惑うお客さまもいますが、経営をお手伝いする中で「一緒に頑張ろう」と思っていただけの方も多かったです。また、特に若い経営者や起業家は、私たちのような専門家と相談しながら進めたいというニーズもあ

——若手スタッフが活躍されています。

小笹 セミナーのウェブ配信やアーカイブ公開、データのクラウド化などIT化が進む中で、活躍するのは若い世代。現在約4割の

加藤 60周年は通過点と考え、100周年に向けて新たな一歩を踏み出します。積み重ねてきた基本を守りながら社会の変化に対応し、次世代の人材育成にも注力します。当事務所の強みである顔を見てお話しすることを大切に、今後も札幌を拠点に活動していきます。



## 会長・税理士・公認会計士 加藤 恵一郎

1967年高松市生まれ。税理士・公認会計士。80年立命館大学経営学部卒業。2003年税理士法人加藤会計事務所設立。代表社員に就任。日本税理士会連合会情報システム委員会副委員長、北海道税理士会常務理事を兼任。現在、TKC全国会副会長・札幌特別委員会委員長、TKC社外取締役、中小企業会計学会理事。

## 所長・税理士 菅野 浩

1969年鹿児島市生まれ。税理士。94年北海道大学大学院経済学研究科修士課程を修了。北海道税理士会理事、北海道税理士会札幌中支部長、TKC北海道副会長、TKC中央研修所札幌情報研修小委員会委員長。

## 次長・税理士 小笹 倫幸

1980年高松市生まれ。税理士。2003年小樽商科大学大学院経済学専攻修士課程を修了。

# 「経営者との協働」で 加藤会計

協働で企業の経営を考えるのは貴重な経験になります。

菅野 現在、税理士の平均年齢は約60歳と高い。次世代を担う若手にもぜひ目指していただきたいです。

も変化を迎えようとしています。

加藤 近年は業務内容や量が変化し、近い将来には記帳代行はなくなるとも言われています。20年、30年先もお客さまの役に立てるか。という視点が大切で

加藤 税理士の4大業務

す。今後は、相談業務がより重要になっていくと考えられています。

小笹 働き方改革も進んでいます。当事務所では有休の自由な取得や男性の育休取得に加え、時短勤務の。お母さん税理士。も活躍しています。密な連携で残業を減らし、人員を拡充して一人あたりの担当件数も減少しました。その分、1件のお客様に向き合える時間が増え、顧客満足にもつながりました。

菅野 60周年は通過点と

である、申告書を作成する「税務」、帳簿を重視する「会計」、決算書に意見を付ける「保証」、数字を見ながら気づきを促す「経営助言」をバランス良く行うことが大切です。特に経営助言をしっかりと行うことを目指しています。



加藤恵一郎会長

スタッフが20代です。加藤 税理士の仕事はパソコンに向かって数字を打ち込むだけというイメージがあるかもしれませんが、当事務所は真逆です。月の半分は、朝事務所を出てお客様を訪問し夕方に戻ってくる。アウトドア。な税理士事務所でありが、いもひとしお。また、経営者の方と

## 変化する会計 事務所業界

——AIなどで業界全体

という視点が大切で



小笹倫幸次長